

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における

飛 幡 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようなになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

飛 幡 中学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、数学A・B、理科)結果

		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成25年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成27年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均をかなり上回ることができた。 基本的な内容の定着が図られた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題の正答率がかなり高い。	上回っている
	努力が必要な問題	伝えたい事実を明確に相手に効果的に伝えるように書く問題に課題がある。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均をわずかが下が下回っていたものの、文章を読み取り、自分の考えを書くような力はついてきているが、状況に応じて資料を活用し書く力に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書くことは正答率が高い。	下回っている
	努力が必要な問題	状況に応じて、資料を活用して話すような問題に課題がある。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	全国平均をわずかが上回ることができた。 基礎的な学力の定着が図られている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	与えられたものから図形を読み取ったり、中央値を求めることは正答率が高い。	上回っている
	努力が必要な問題	与えられた比例のグラフ名からXの変域に対応するYの変域を求めることに課題がある。	

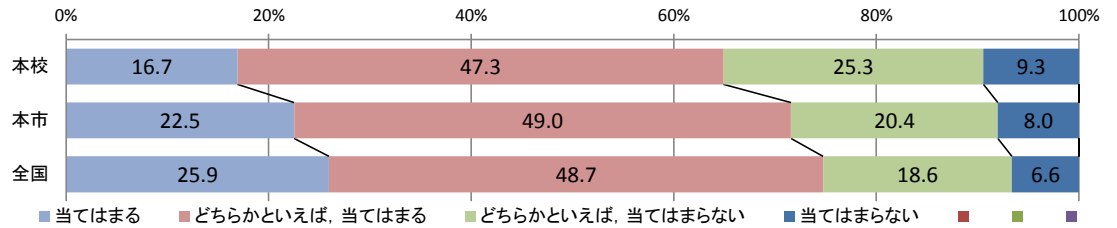
数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率をやや下回っており、特に図形の性質についての応用に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することの正答率が高い。	下回っている
	努力が必要な問題	与えられた式を基に事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できない。	

理科	全体的な傾向や特徴など	全国正答率をやや下回っており、科学的思考や観察の技能の応用に課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	天気の記事から風力を読み取ることができる。	下回っている
	努力が必要な問題	天気の記事から風力を読み取り、風向計を使って風向を観察することができない。	

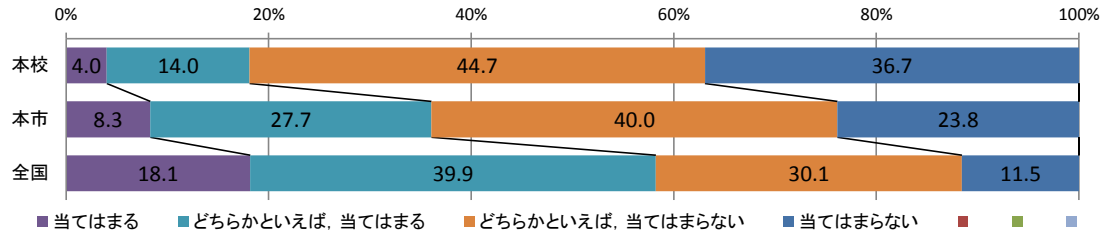
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

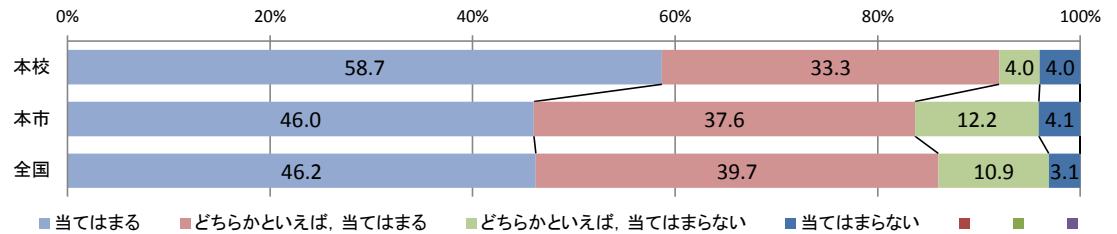
36
「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。



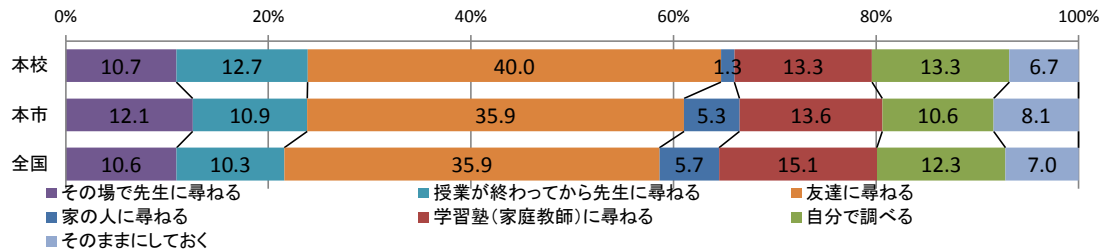
37
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



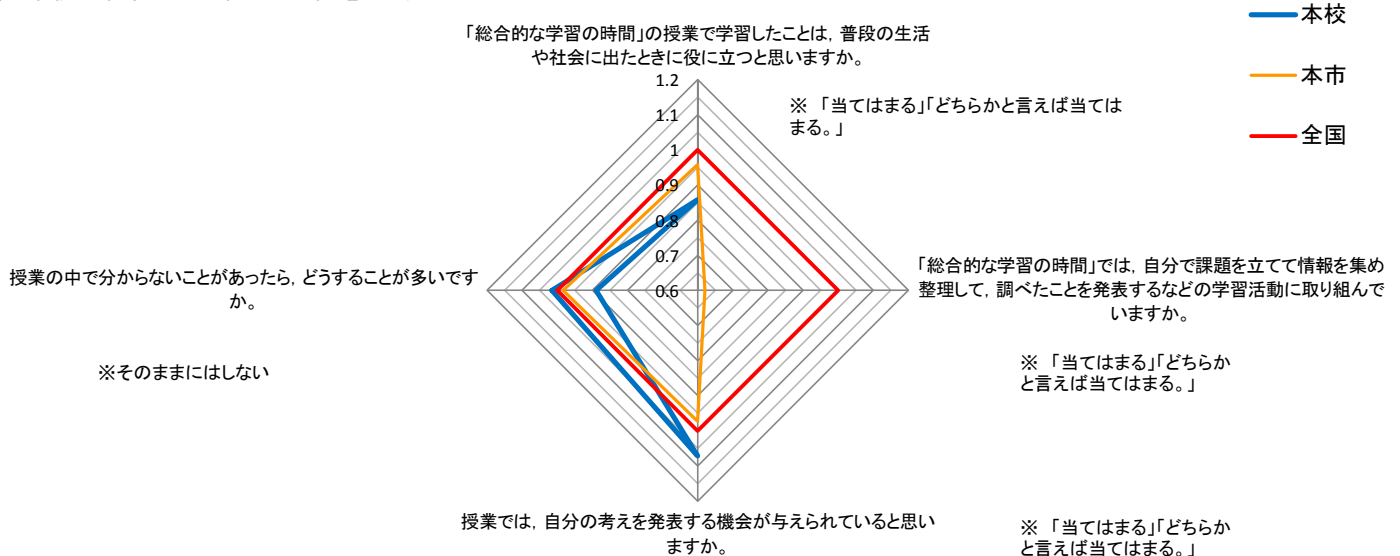
38
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。



47
授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

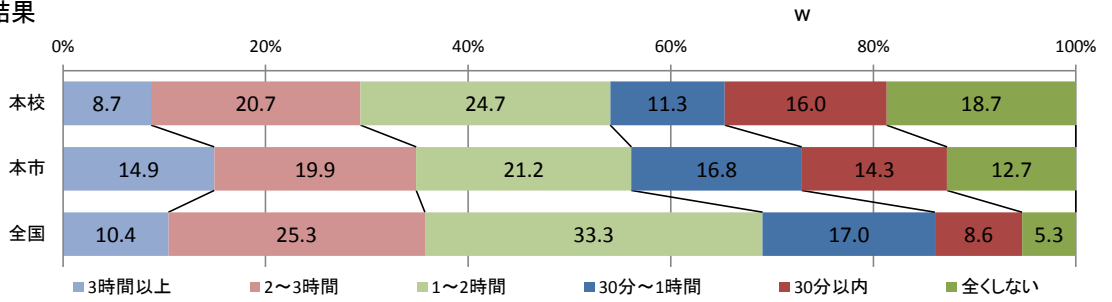
発表する機会が与えられている生徒は、全国と比較しても上回って来て授業の取り組みの成果が出ている。話し合う活動は全国とその差はなくなってきている。今後も発表する機会を増やす授業を行っていく。情報収集・発表等の活動は全国を大幅に上回っているが、情報収集・発表等の活動を自分のものにするという意識が低い。活動・取り組みの意義・目的を認識させ取り組む必要がある。

・今後も国語科の授業を中心に、自分の考えを書いて整理してから説明させる活動や資料から適切な情報を得て、考えをまとめ発表する活動、学校や学年行事の際にも自分の考えを発表する活動を取り入れる必要がある。

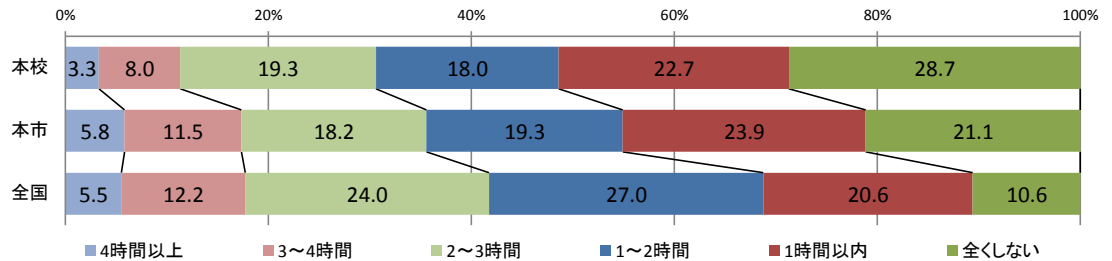
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

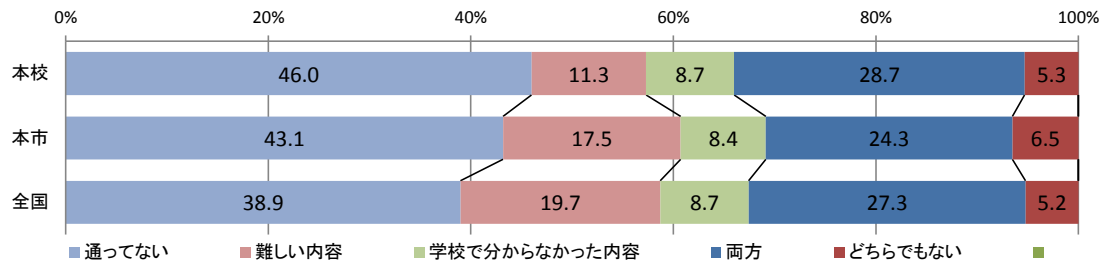
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



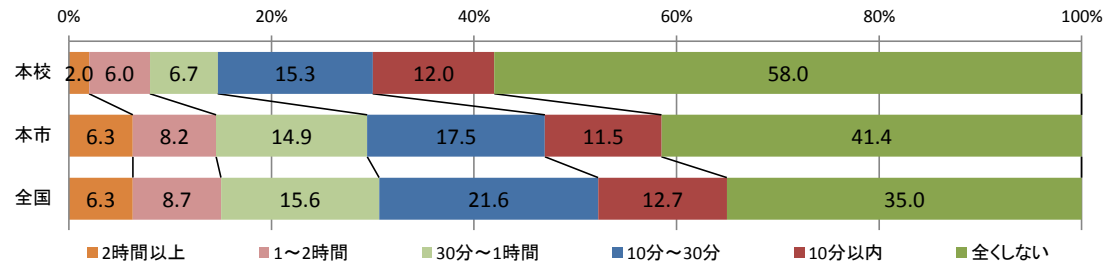
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



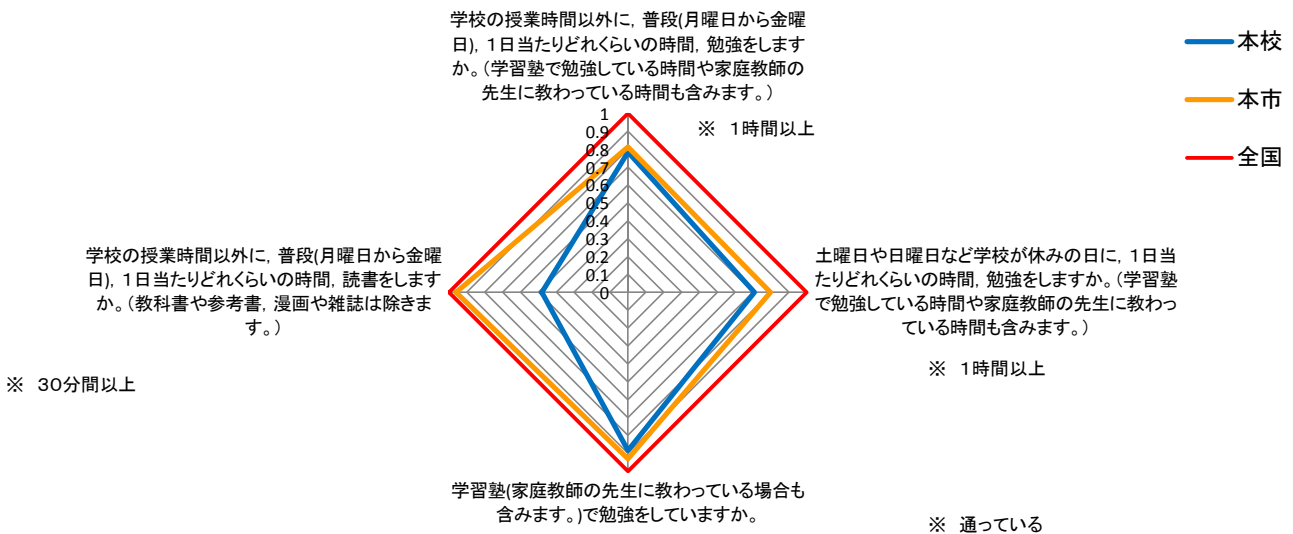
15
学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含まれます。)で勉強をしていますか。



16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)をしますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

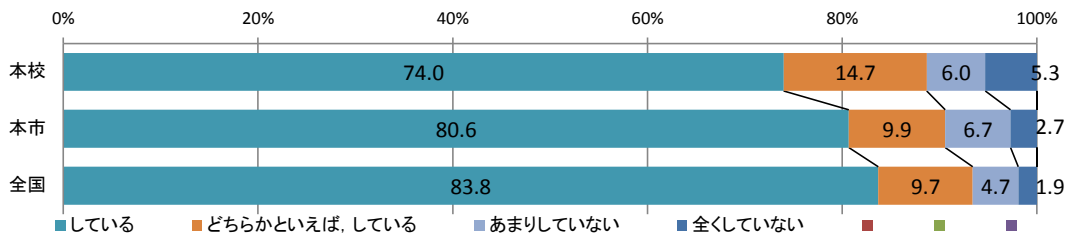


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

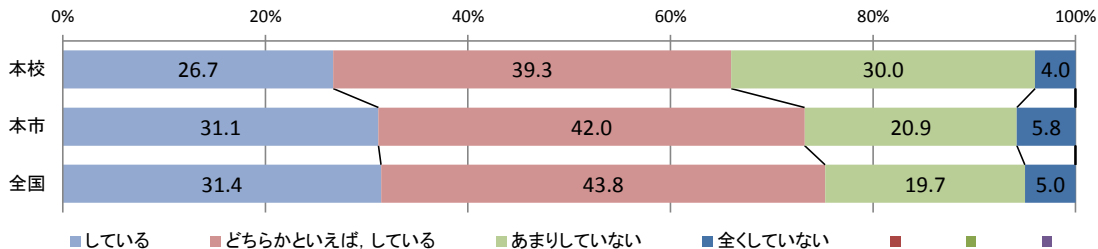
- ・学習塾等に通っている生徒が少ないが、家庭学習は平日の8割の生徒が取り組んでいる。これは職員側から家庭学習の課題が多く出されていることも原因といえる。また、教科担当教師のきめ細かい一貫した指導が三ヶ年に渡り続けていることも要因の一つといえる。
- ・読書量は非常に少ないが、国語の力や理解力は十分に着いてきている。これは、国語の授業における基礎学力を定着させる多くの取り組みの成果が出てきているといえる。
- ・家で学校の宿題はしているが、自主的な取り組みを行っている生徒の割合が少なく、家庭学習の具体的な取組を指導する必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

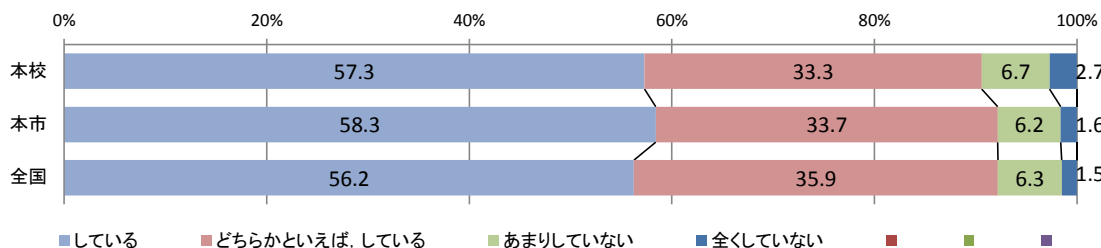
1
朝食を毎日食べていますか。



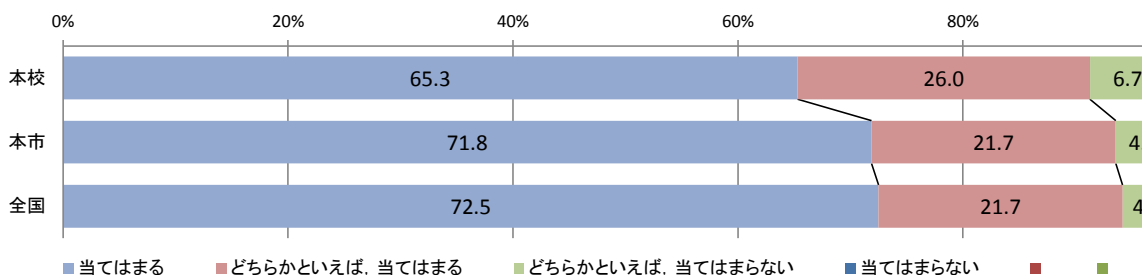
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



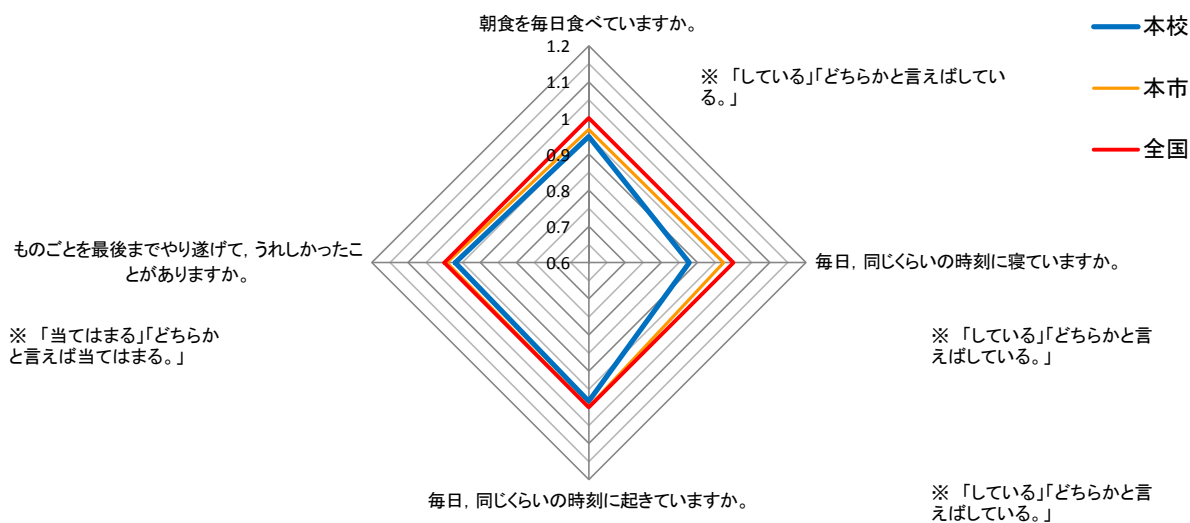
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



4
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果から分析される傾向

- ・家庭学習が多くなっている分、起床・就寝時間のずれ等がややみられ、規則正しい基本的な生活習慣を指導する必要がある。
- ・最後までやり遂げる達成感を感じていない生徒が全国に比べやや少ない。
- ・取り組みにおいて意義などを十分に理解させ、目標設定を行う必要がある。
- ・今後は、各学年で発達段階に応じた進路学習を適切に行うことで、自己肯定感を持たせるとともに、夢や目標を実現させ、人の気持ちが分かり、社会の役に立つ人間となるために具体的な進路計画を立てることで、行動に結び付けさせる必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

◎学力向上のための特設時間の実施

- ・スケジュールにあるような漢字チャレンジや数学・英語の朝自習週間を設け、集中して基礎学力の向上に取り組んでいる。
- ・期末考査前1週間から、全校一斉に基礎的な学習の時間を毎日50分間実施する。〈学力向上週間〉
- ・定期考査実施前に、全校一斉に基礎的な学習の時間を50分間実施する。〈学力向上タイム〉
- ・各学期3週間、国・数・英の朝自習強化期間を設定し、コンクールやテストで評価する。
- ・小中連携サポーターにも活動の補助やプリントの印刷を依頼する。

◎過去問題・アシストシート、活用力を高めるワークの活用

- ・夏季や冬季の休業日に宿題として実施する。

◎「書く」「発表する」ことの習慣化

- ・学校行事や学年行事では調べ活動を取り入れるとともに、振り返りカードや感想文を必ず書き、自分の意見を発表するようにする。
- ・西日本新聞「春秋」、朝日新聞「天声人語」を視写することにより書く活動を通して書く力を培っている。

○ 学力向上に関する職員研修の実施

- ・全教職員で、過去問題の出題傾向から指導内容の検討・家庭学習の課題の内容を検討するなどの研修会を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎ 宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)

- ・学年ごとに家庭学習時間を設定し、「家庭学習のきまり」を確認する。1年生は1時間、2年生は1時間半、3年生は2時間の課題学習を行う。
- ・冬休みや春休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用する。特に、新1年生に対しては春休みの課題として国語・数学の課題を与え、入学後に解答を配り、授業で指導している。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。
- ・放課後等の時間帯を利用して質問教室を実施する。
- ・家庭学習マイスター賞への応募を勧める。
- ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用する。

◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・学校、学年だより及び学校ホームページの充実を図る。